

塩野谷秋風句碑

(しおのやしゅうふうくひ)



【所在】

鷹栖町 14 線 3 号

(北野神社境内)

【歌碑建立】

昭和 50 年

草笛吟社と縁深い 塩野谷秋風

塩野谷秋風は本名貞雄、明治 42 年に旭川市東旭川に生まれた。

本業は代書業で、昭和 3 年頃より俳句の途に入り、石田再雨子、荒谷松葉子に師事し、昭和 11 年頃に松葉子を迎えて月刊俳誌「草雲雀」を刊行し、「馬酔木」「寒雷」にも学んだ。戦後の昭和 21 年 6 月、「霧華（きばな）」を創刊。「個性の開花」を基本に、地方に多くの俳句人を育てた。同 24 年に句集「花野」を上梓、32 年に「霧華」を「きばな」に改題、38 年には旭川文化奨励賞を受賞。同 47 年に句文集「遍歴」を上梓、49 年に「きばな」を「樹氷」と改題した。

この年、大須賀乙字系の金尾梅の門主宰の「季節」、河野南畦主宰の「あざみ」に同人として迎えられている。また、新聞のコラム欄執筆者や俳壇の選者などを努めた。

昭和 50 年に俳誌「樹氷」の会員の多い、鷹栖草笛吟社が秋風師の句碑建立の承認を受けて、グループ結成 10 周年記念事業として句碑を建立した。北野神社関係者の協力により境内に建立が許され、同年 8 月 28 日、神苑内に迎えることが出来た。文学碑の建立は、中山静山翁の句歌碑より 60 年目のものであった。

この句碑は塩野谷秋風第一句碑で、第二句碑も丸山神社にあり、第三句碑が出生地の旭山公園にある。